

3

第3章

目指すべき観光地像と 基本方針

ふるさとへの誇りが人々を惹きつけ、 住む人も訪れる人も幸せになるまち

～宝石のように人々が輝き続ける 山の都こうふ～

本市が目指す観光地像は、観光による一時的な賑わいを創出するだけでなく、市民が「ふるさと甲府」の魅力に誇りを持ち、その誇りが人々を惹きつけ、住む人も訪れる人も幸せを実感できるまちを実現することです。

本市は、盆地を囲む山々とともに歩んできた都市であり、「日本遺産 御嶽昇仙峡」をはじめとする雄大な自然は、信仰や暮らし、産業、文化と深く結びつきながら、まちの成り立ちを形づくってきました。山は、景観としての魅力に加え、水や農産物、鉱物資源などの恵みをもたらし、人々の営みと都市の発展を支えてきた存在です。

こうした山々に囲まれた都市構造は、市街地と自然が身近に調和する本市ならではの特徴であり、市民にとっては誇りと安らぎの源となっています。また、来訪者にとっては、都市に滞在しながら雄大な自然や歴史・文化に触れられる、他都市にはない体験価値を生み出しています。

さらに、山の恵みに育まれてきた宝飾産業や食文化、温泉などの地域資源は、本市の個性を際立たせるとともに、観光を通じて、人と人、人と地域とをつなぐ重要な役割を担っています。これらの資源を磨き、分かりやすく発信し、体験として届けていくことで、市民の誇りの醸成と地域経済の活性化につなげていきます。

本計画では、こうした本市ならではの地域資源を観光の力として活かし、「観光による地域経済の活性化」と「市民の誇りと満足度の向上」を両立させる持続可能な観光振興を進めます。

以上を踏まえ、「ふるさとへの誇りが人々を惹きつけ、住む人も訪れる人も幸せになるまち」を、本市が目指すべき観光地像とします。

なお、サブタイトルにある「宝石のように人々が輝き続ける 山の都こうふ」は、盆地を囲む山々の恵みの中で、人々の営みや魅力が磨かれ、輝き続ける都市の姿を表したものです。

本市がこれまで守り、受け継いできた自然・歴史・文化・産業といった多彩な地域資源を適切に保全・活用し、その価値を持続的に高めていくためには、地域の魅力を的確に捉え、磨き上げていくことが重要です。

また、観光を通じて地域が賑わい、住む人と訪れる人の双方が心地よく過ごせる環境をつくるためには、地域の魅力を共有し、誰もが安心して過ごせる受入体制の整備や、多様な主体が連携して観光を支える体制づくりが求められます。

こうした考え方から、本市では、エリアごとの強みを引き出す観光地づくり、甲府の資源を最大限に活かした地域活性化と情報発信の強化、こうふ愛の醸成と市民参画による持続的な観光振興の推進、誰もが快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実、そして観光を前進させる体制づくりを柱として、今後の観光地域づくりの方向性を示す5つの基本方針を定めました。

これらの基本方針に基づき、市民・事業者・行政が一体となって取組を進めることで、目指すべき観光地像の実現を図ります。

基本方針1	エリアごとの強みを引き出す観光地づくり
基本方針2	甲府の資源を最大限に活かした地域活性化と情報発信の強化
基本方針3	こうふ愛の醸成と市民参画による持続的な観光振興の推進
基本方針4	誰もが快適に過ごせる観光地づくりと交通環境の充実
基本方針5	観光を前進させる体制づくり